

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 1月分

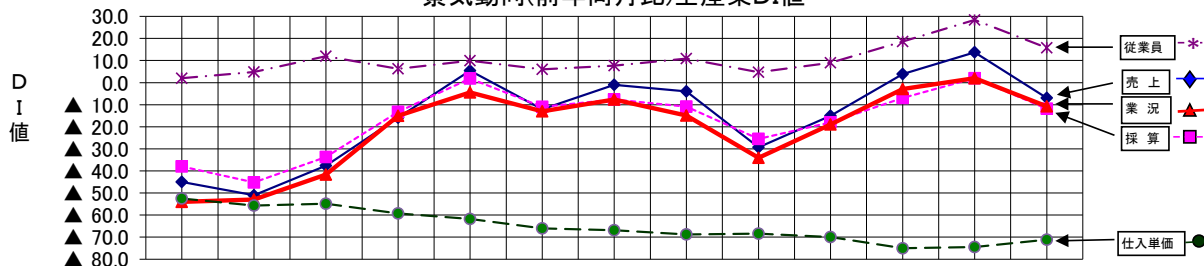
【1月の概要】

オミクロン株急拡大で、業況判断は反転下降 原油原材料の高騰等も引き続き深刻

業況判断を示すDI値は、3カ月連続で改善傾向だった売上・採算・業況DIにおいて10ポイント以上大幅に下落し、再びマイナス水準となった。仕入単価DIは引き続き▲70ポイント台であり、従業員DIについても依然人手不足感は強い。先行き見通しは、感染状況改善への期待感もあつたか、先月と比較して数値は改善してはいるものの、従業員DIを除き、依然としてマイナス水準である。

寄せられたコメントでは、オミクロン株による急激な新型コロナ感染再拡大により先行きを不安視する声が圧倒的であり、原油原材料の高騰や半導体不足、人手不足などの指摘も引き続き多く、ようやく上向き始めた景気回復の道筋にブレーキがかかった状況となっている。

景気動向(前年同月比)全産業DI値



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2021年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年1月
売上	▲45.0	▲51.0	▲37.6	▲15.9	5.4	▲12.0	▲1.0	▲4.0	▲29.3	▲15.0	3.9	13.7	▲6.9
採算	▲38.0	▲45.2	▲33.7	▲13.3	1.8	▲11.0	▲7.7	▲10.9	▲25.5	▲18.0	▲6.9	2.0	▲11.8
業況	▲54.0	▲52.9	▲41.6	▲15.0	▲4.5	▲13.0	▲7.7	▲14.9	▲34.0	▲19.0	▲2.9	2.0	▲10.8
仕入単価	▲52.5	▲55.7	▲54.9	▲59.2	▲61.7	▲66.0	▲66.8	▲68.8	▲68.4	▲70.0	▲75.0	▲74.5	▲71.1
従業員	2.0	4.8	11.9	6.2	9.9	6.0	7.7	10.9	4.7	9.0	18.6	28.4	15.7

- ・マイナス幅が減少したDI値：仕入単価3.4ポイント
- ・プラス幅が減少したDI値：従業員12.7ポイント（需給均衡局面へ）
- ・プラスからマイナスに転じたDI値：売上20.6ポイント、採算13.8ポイント、業況12.8ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
11月	2.0	▲10.8	0.0	▲47.1	17.7
12月	▲11.8	▲21.6	▲15.7	▲41.2	24.5
1月	2.0	▲11.8	▲9.8	▲43.1	18.6

- ・見通しが改善したDI値：売上13.8ポイント、採算9.8ポイント、業況5.9ポイント、従業員▲5.9ポイント（需給均衡局面へ）
- ・見通しが悪化したDI値：仕入単価▲1.9ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	管工事	景気も上向き始めてきた矢先に、再度の新型コロナ感染拡大により今後下降傾向になるか心配。
	ゼネコン	原油高騰と設備部品の不足の影響が出ている。忘年会は全社的に自粛を推奨、（新年）祝賀の会は中止とした。
製造業	建材	一部で部品の調達ができないため製品が未完成で納期を確定できず、売上修正せざるを得ない。
	溶接加工	従業員不足につき、求人を引き続き出してはいるが、なかなか決まらない状況。
卸売業	青果	外食産業等の業務需要が回復傾向にあったが、オミクロン株の出現により先行きが見通せない。
	水産物	品薄と仕入れ価格の高騰が続く。価格転嫁できず厳しい状況。
小売業	百貨店	拡大傾向にある新型コロナの新たな変異株の影響次第で先行き不透明な状況になる可能性がある。
サービス業	ソフトウェア	半導体不足の影響でサーバー等機器の納期が見えず、システムの納期遅延が懸念される。
	タクシー	一昨年の年末・年始に比べれば、多少人流があり良かったが、従業員の減少が止まらず労働力不足。
	飲食	オミクロン株の急激な拡大によって（外食回数減少等）消費マインド後退の恐れもあり予断を許さない。